

- 大規模稲作経営において、管理するほ場数が多く、広く分散し、飛び地・遠隔地のほ場で現地に出向くのに多くの時間を要することが問題。
- 温暖化が進む中で、水田環境が水稻の生育、及び食味に与える影響の解明が重要となっている。
- 水田センサの設置により、ほ場巡回コースを設定できるようになり、水管理にかかる省力化が図れた。

実証の取組イメージ

水位測定により、省力的なほ場巡回コースを設定



つや姫深水栽培実証ほ

実証の成果

- 斐川町ICT導入研究会を組織し、斐川地域にマッチしたICT事業構築を目指して、関係者がそれぞれの立場から意見交換ができた。
- 大規模稲作農家の水管理に係る**1日の時間で約30分、走行距離で20km短縮**できた。
- 地域の中で水田センサに関心をもつ農業者が増加している。

普及指導員の活動

- つや姫実証ほにおいて、深水栽培による品質向上を指導した。
- つや姫実証ほにおいて、水田センサデータと生育データの関連性を調査するためのデータ蓄積を行った。

今後に向けて

- 農業技術センターと連携を図りながら、水田センサを活用した、深水栽培による高品質・良食味栽培技術の確立を図る。